



令和7年度表彰者

# ふくい地域創生アワード 実績・業績集

# もくじ



「ふくい地域創生士」の認定・「ふくい地域創生アワード」表彰制度の目的 ……2  
令和7年度「ふくい地域創生アワード」表彰者について



福井大学 国際地域学部 国際地域学科 洞口 純花 ……3  
「プロバスケットボールクラブにおける地域密着化戦略に関する考察  
～コアファンの創出とホームタウン活動に着目して～」



福井県立大学 経済学部 経済学科 神谷 颯 ……11  
「ジニ係数と地理情報に基づく駅周辺発展の可能性  
～事業所分布と駅まち再構築事例の分析～」



福井県立大学 生物資源学部 創造農学科 五島 春季 ……15  
「越前白茎ごぼうの認知度向上と普及拡大に関する研究」



福井県立大学 海洋生物資源学部 海洋生物資源学科 北野 李 ……19  
「海面水温が若狭湾産アカガレイの鮮度に及ぼす影響」



結びに ……22



## 「ふくい地域創生士」の認定・「ふくい地域創生アワード」表彰制度の目的

福井県内すべての4年制大学が、福井県および産業界・医療界等と一体となって、地域の持続的な発展とイノベーションを推進する担い手を育てようとするふくい地域創生士の認定制度が、ふくい COC+事業(※1)を契機に始まり今年度で9年目を迎えました。令和2年度からは、COC+事業の終了に伴い福井県の協力のもと、県内すべての高等教育機関が参加した協議体FAAふくいアカデミックアライアンスが認定・表彰を担っています。

この認定・表彰制度は、“ふくい”というフィールドで地域に興味を持ち、理解を深めるための地域志向科目を学び、様々な課題に対し、フィールドワークやインターンシップ等を通して、「地域に貢献できる人材」と認定された学生を「ふくい地域創生士」として認定し、さらにその中から「顕著な業績を残し、地域の持続的な発展に寄与できる人材」として推薦されると、「ふくい地域創生アワード」(※2)として表彰されるというものです。そうした取組を通じて地域を知り、地域に触れて、地元定着率の向上を図ることが目的です。

※1・・・「地(知)の拠点大学に地方創生推進事業(COC+)」(平成27年度～令和元年度)は、文部科学省による補助事業で、このうちふくい COC+事業は福井大学を責任校に県内すべての4年制大学が参加し、福井県ならびに地域の産業界等と連携し、各大学の強みを活かしながら、その地域の課題解決に向け中心的役割を担える人材を養成した事業。

※2・・・「ふくい地域創生アワード」として推薦される際、各自が取り組んだ地域の課題解決に繋がる実践活動や連携活動の実績、地域の持続的な発展や地域産業の振興に繋がる研究成果などの顕著な業績を申請書に300字程度で記載する。



## 令和7年度「ふくい地域創生アワード」表彰者について

令和7年度の「ふくい地域創生アワード」表彰者は4名(福井大学1名、福井県立大学3名)です。令和8年3月17日に開催された「ふくい地域創生士認定証授与式並びにふくい地域創生アワード表彰式」において、各自の業績が発表されました。本来すべてのアワード対象者が発表を行う必要がありますが、やむを得ない事情により欠席となった対象者の発表の場の確保も兼ね、本稿にまとめ発信しております。

学生たちのいきいきとした息づかいが伝わってくる研究成果の数々。

その先輩たちの姿に憧れて、ふくい地域創生アワードを目指す学生も出てきています。本取組が広く地域に知られ、ふくいならではの認定制度として地域がこれを支えてくれるようなものになっていくと関係者一同願っております。

### 【お断り】

本稿掲載のふくい地域創生アワード表彰者によるスライドおよびスライド内記載のデータ等々に関しましては、無断転用・引用等を禁止とさせていただきます。

あらかじめご了承ください。

〔所属・氏名〕福井大学 国際地域学部 国際地域学科 洞口 純花  
〔実績・業績〕プロバスケットボールクラブにおける地域密着化戦略に関する考察  
～コアファンの創出とホームタウン活動に着目して～

# プロバスケットボールクラブにおける地域密着化戦略に関する考察 ～コアファンの創出とホームタウン活動に着目して～

国際地域学部 国際地域学科 4年

洞口 純花

## 1. 研究の背景と目的

### 社会・リーグの背景

B.LEAGUEの人気急上昇と、2026年「B.革新」による大規模なリーグ改革が予定されている。

### 本研究の目的

コアファン創出とホームタウン活動が地域活性化に結びつく仕組みを明らかにし、プロバスケットボールクラブが地域に根付き、持続的に発展するための鍵となる要素を考察する。

## 2.コアファンの定義とB.LEAGUEにおけるホームタウン活動の展開

### 2-1.コアファンの定義：岡田(2025)に基づく(表1)

| 項目      | コアファン             | 一般ファン       |
|---------|-------------------|-------------|
| 関心の深さ   | 非常に高い（強い愛着を長期間保持） | 中程度         |
| 情報の追跡頻度 | 高頻度（主体的な収集・関与）    | 低～中         |
| 交流の頻度   | 積極的               | 控えめ         |
| 応援の形    | 長期的・多様            | 一時的・比較的シンプル |

※本研究では、特定のクラブや選手に対し強い愛着を長期間保持し、情報収集や交流、応援活動に主体的・継続的に関与する層と定義。

## 2-2.B.LEAGUEの成長モデルとホームタウン活動

### 中期経営計画「感動立国」(2024–2028)

2028年度に向けた挑戦的な目標設定。

総入場者数(目標)

**700万人**

※2022-23実績：約305万人

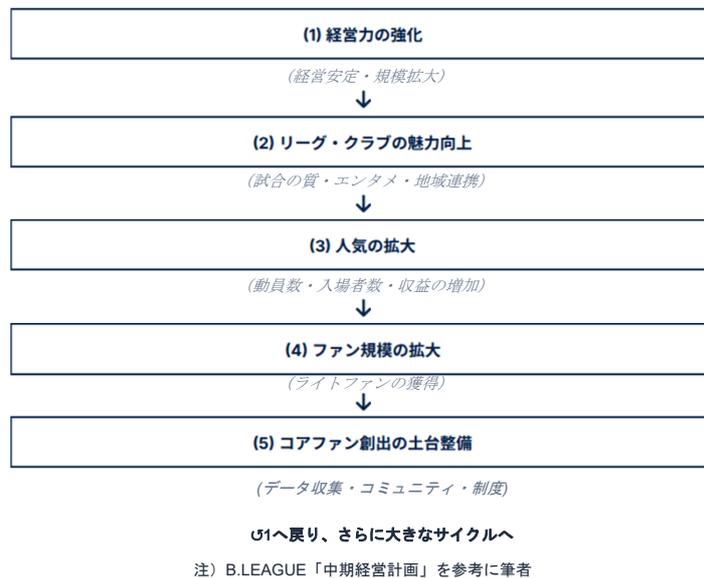
事業規模(目標)

**800億円**

※2022-23実績：415億円(前年比+38.3%)

▶ 経営力強化からファン基盤拡大（ライト・コア層）へと繋がる循環構造を前提としている。

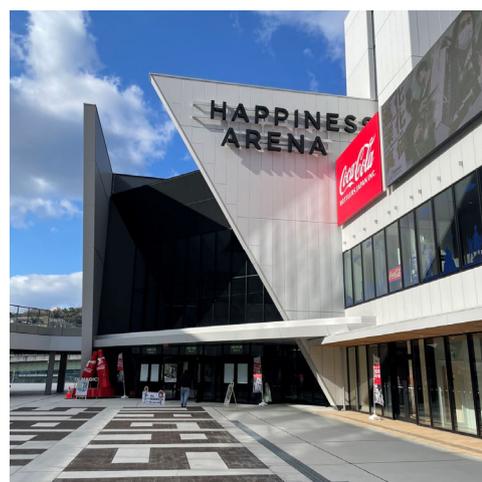
## 図1 .B.LEAGUEの成長モデル



## 3.ホームタウン活動の意義と実態

★「地域課題解決および地域活性化への寄与」  
→単なる興行を超えた「まちづくり」を推進

地域経済の活性化、コミュニティ強化、社会的課題への対応を通じて、クラブの社会的信頼と持続可能なファン基盤を形成する戦略的な意義を有している。



## 4. 「富山グラウジーズ」へのヒヤリング調査とアンケート調査

### 4-1. 選定理由

- (1) B.LEAGUE PREMIER参入決定済みの実績と将来性
- (2) 人口規模や北陸の文化・風土が類似しており福井県との比較対象として妥当である点
- (3) 長年の活動で培われたコアファン創出のノウハウの検証可能性にあること

### 4-2. 文献調査とヒヤリング調査

- ・『富山グラウジーズ2022-2023』を資料①、『富山グラウジーズ2023-2024シーズン終了の報告書』を資料②として参照

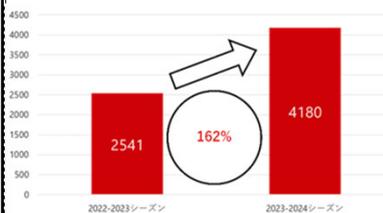
- (1) ブースターの特徴
- (2) ホームタウン活動の現状と課題
- (3) 地域に根付かせるために意識してきたこと
- (4) 今後の取り組み

## 4. 「富山グラウジーズ」へのヒヤリング調査とアンケート調査

### 4-3. 調査結果

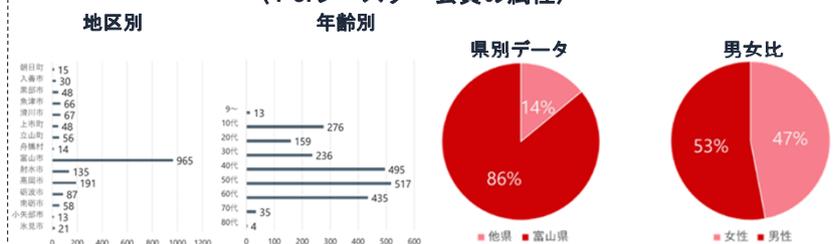
#### 【1. ブースターの特徴】

#### 〈1-1. 試合平均入場者数(人)の推移〉



1.6倍以上と2シーズン前から昨シーズンにかけて大幅アップ!

#### 〈1-3. ブースター会員の属性〉



・富山市が965人と全体の約46%を占めている

・ブースターの86%が富山県民である

一地域に根付いていることが読み取れた

## 【2.ホームタウン活動の現状と課題】

- ・地域課題の解決と経済活性化を一体となって推進。（「トヤマチ∞ミライユナイテッド」との包括連携協定を軸とする）
  - ・具体的な集客施策：「スポーツ塾」・オリジナルダンスの指導→ファミリー層の開拓地域密着型の活動を重視。
- 潜在的なファン創出の機会と捉え、継続的な実施を徹底。

## 【3.地域定着への戦略と成果】

- ・昨シーズンのB2降格という逆境を契機に、広報活動と地域密着体制をより一層強化。
- ・住民を「支える側」として積極的に巻き込んだ結果、2024-25シーズンには平均入場者数4,180名と過去最高を記録。

## 【4.考察：地域密着型チームへの変革】

- ①自治体・民間と連携した地域振興の仕組みづくり
- ②逆境をバネにした地域密着型への転換
- ③住民が主役となる場の提供と、チーム成長の当事者化

→地域振興とコアファン獲得を両立させ、前年比1.6倍以上の集客増を達成する要因となった。

## 【今後の展望】

- ★地域とクラブの相乗効果（WIN-WINの関係性）を深化させ、スポーツを通じたシビックプライド（郷土愛）の醸成と地域ブランドの向上に寄与することを目指している。

## 4-4.アンケート調査の概要

| 区分    | 調査①（富山駅周辺）  | 調査②（プレシーズン会場）  |
|-------|---|--|
| 実施日   | 2025年7月27日(日)                                       | 2025年9月23日(火)  |
| 場所・手法 | KNBサマーフェスティバルにおける出店ブース<br>GoogleフォームのQRコード設置およびビラ配り | 富山県西部体育センターで行われた<br>プレシーズンゲーム<br>ファンクラブブースへGoogleフォームのQR設置 |
| 回答数   | 6件  | 2件   |
| 主な項目  | 属性、観戦経験、イベント参加動機、認知度・好感度、<br>福井との関係性、今後の期待など 計10項目  | 年齢、性別、職業、居住地、観戦経験、チームの<br>魅力、ホームタウン活動、今後期待することなど<br>計8項目   |

## 4-5. アンケート調査の結果と考察

### 調査から得られた知見

- 地域イベントへの参加が認知拡大とコアファン創出に繋がる可能性が高い。
- 会場の雰囲気づくりがファン化に大きな影響を持つ。
- 大規模イベントやコラボ活動などの“露出の大きいコンテンツ”が有効。

### 福井ブローウィングスへの重要施策

- 地域イベントへの積極的参加：接点の最大化。
- コンテンツの充実：参加したくなる仕掛け。
- 一体感の醸成：会場を「また来たい場所」へ。

## 5. 「長崎ヴェルカ」へのヒヤリング調査

### 5-1. 調査概要

#### 目的

- 地域資源を活用したスポーツの社会的意義と地域振興における役割を解明する。

#### 選定理由

- 長崎スタジアムシティ」を拠点とするアリーナを核とした街づくりが先進事例であること。
- 最新の地域密着型活動から実践的知見を得るため。

#### 方法・内容

- 公式問い合わせフォームを通じたメール回答形式で実施。
- 地域連携およびファン戦略を中心とした計6つの調査項目で構成。  
I. ブースター（ファン）に関する事項, II. 観客動員・会員制度に関する事項, III. ホームタウン活動に関する事項, IV. アリーナ・スタジアム運営と地域活用, V. 地域連携・パートナーシップ, VI. 今後の展望・課題

## 5-2.ヒヤリング調査の結果 地域密着とコアファン創出の7条件

### (1)共創の実現

住民が主役となる参画プロセスの構築。

### (2)一体感を最大化させる「高密度なエンターテインメント空間」の創出

一体感を最大化させる空間の創出により、来場者に強烈な感動体験をもたらし、一度の観戦をリピートやファン化へと繋げる。

### (3)「エンタメ企業」としての多角的な体験設計

アリーナを核とした非日常的な演出や、バスケットボール以外のコンテンツ（商業施設、物産、マルシェ等）を融合させることで、競技に詳しくない新規層の心理的ハードルを下げ、幅広い層を惹きつける「入り口」を創出すること。

### (4)デジタルとアナログを掛け合わせたファンの階層別アプローチ

一人ひとりの熱量に応じた段階的なファン育成（グラデーションの設計）を行うこと。

### (5)徹底した「PDCAの高速回転」による運営改善

徹底したデータ活用と運営改善により顧客満足度を常に更新し続ける体制を構築。

### (6)地域の社会課題を「唯一無二の体験価値」へ転換する企画

その地域でしか成し得ない「人生初の体験」を創出する。行政との公平な連携を保ちつつ、地域住民が郷土愛を持ちクラブを応援したくなる心理的土壌を耕す。

### (7) 行政の制約を乗り越える「官民連携プラットフォーム」の構築

行政特有の単年度予算や細分化された費目という制約に対し、複数クラブの合同体制や民間企業の巻き込み（スポンサーシップ）による予算の多角化を図る。

## 6.今後の展望(5の分析から今後の方向性としての4つの視点を提示)

### (1) スポーツクラブを核とした「地域OS」への進化

単なる興行主体という枠組みを超越し、地域の課題解決や新たな価値創造を担う「地域プラットフォーム（地域OS）」へと進化。

### (2)多機能型交流拠点としてのスタジアム・アリーナの定着

商業、教育、福祉などの機能が統合され、地域住民の日常生活が交差する場となることで、地域経済のハブとしての役割が強化。

### (3)「共創型」コミュニティの拡大と深化

クラブの意思決定や活動プロセスにファンや住民が直接関与する仕組みが一般化し、「地域の価値」を共同で高める動きが加速する。

### (4)社会的価値の定量化（SROI：社会的投資収益率の普及）

行政予算投入の妥当性や企業のスポンサーシップの意義がより客観的に証明される時代へと移行。

## 7.戦略提言：地元クラブの地域定着に向けた3つの柱

### 第1の柱：「体験」のパーソナライズ化とエンゲージメントの階層管理

「体験」をパーソナライズ化し、ライト層からコア層へ引き上げるステップをデータに基づき管理する。

### 第2の柱：地理的・行政的制約を「独自価値」へと転換する企画設計

地理的・行政的制約を「地元ならではの価値」へと転換する地域密着型の企画を設計する。

### 第3の柱：データ駆動型「超速PDCA」体制の標準化

運営の標準化と改善の高速化により、地域住民の期待値を常に超え続ける体制を構築する。

ご清聴ありがとうございました

主要参考文献：

・岡田康介(2025)/B.LEAGUE公式/富山グラウジーズ シーズン報告書(2022-2024)

# ジニ係数と地理情報に基づく 駅周辺発展の可能性 —事業所分布と駅まち再構築事例の分析—

福井県立大学・経済学部経済学科  
神谷颯

1

## はじめに:なぜ「駅の出口に着目するのか」

- 背景
  - 北陸新幹線の福井駅延伸に伴い、駅周辺の再開発が進む中、地方都市特有の「人口減少」と「中心市街地の衰退」が課題
- 問題意識・動機
  - 福井駅の西口と東口のにぎわいには差がある？  
→「駅出口による発展の偏り」を定量化したい



2

## ジニ係数①:ジニ係数で出口の偏りを定量化

### ●ジニ係数

通常は所得格差を示す指標(0に近いほど平等、1に近いほど不平等)  
本研究では「駅周辺の事業所分布の偏り」に応用  
データ:RESAS(地域経済分析システム)の250mメッシュを使用

対象:47都道府県の調査駅において(各都道府県の乗降客数最多駅)  
目視で事業所をカウント

|    |    |    |
|----|----|----|
| A1 | A2 | A3 |
| A4 | A5 | A6 |
| A7 | A8 | A9 |

- 赤色:出口1 3マスメッシュ
- 黒色:除外した3マスメッシュ
- 青色:出口2 3マスメッシュ
- 事業所がメッシュ境界の場合は0.5を乗じて計算

3

## ジニ係数②:47都道府県のジニ係数の分析結果

### ●47都道府県のジニ係数の結果

平均値:0.486・中央値:0.506

最大の県:島根県・松江駅 0.753  
最小の県:高知県・高知駅 0.178

### ●全体傾向

三大都市圏や政令指定都市などは低い  
が、地方圏は高い

### ●鉄道事業者による違い

JR駅のジニ係数は幅広いが、近鉄や第3セクターは高い。伊予電鉄は小さい部類に入る

### ●47都道府県のジニ係数の考察

#### ●駅周辺の都市構造について

→駅の立地はさまざま、駅の立地によるジニ係数の違いも見られる可能性

#### ●鉄道事業者による違いについて

→JR(国鉄)とその他私鉄各社との取り組みの差

国鉄時代は、事業範囲に制約。駅開発にさまざまな課題を残した

JRになってからは地方都市のJR駅でも再開発進む

4

## 福井駅の分析①: 福井駅の取り組み

- 福井駅周辺の取り組み
  - 「福井アリーナ(仮)」の整備
    - 人の流れを重視して整備
  - 「福井市都市計画マスタープラン」「福井市立地適正化計画」
    - コンパクトなまちづくりへ
  - 「駅まち再構築事例集」での取り組み
    - 屋根付き広場等や施設整備
    - タクシープールの位置を工夫



[https://www.city.fukui.lg.jp/kyoiku/sports/sports/p072243\\_d/img/001.jpg](https://www.city.fukui.lg.jp/kyoiku/sports/sports/p072243_d/img/001.jpg) (2026/02/18最終閲覧)

5

## 福井駅の分析②: 福井駅の可能性

- 福井駅の可能性
  - 「駅まち再構築事例集」に掲載されている各駅の駅周辺地図内に記載されている駅前広場面積

|         | ジニ係数        | 出口1 | 出口2 | 出口1<br>事業所数 | 出口2<br>事業所数 | 事業所数<br>の差 | 出口1<br>広場面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 出口2<br>広場面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 広場面積<br>の差(m <sup>2</sup> ) |
|---------|-------------|-----|-----|-------------|-------------|------------|----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------|
| 9. 宇都宮駅 | 0.471976401 | 西口  | 東口  | 54.5        | 58.5        | 4          | 0                                | 13,300                           | 13,300                      |
| 16. 富山駅 | 0.554166667 | 北口  | 南口  | 13          | 147         | 134        | 10,100                           | 12,000                           | 1,900                       |
| 18. 福井駅 | 0.614114114 | 西口  | 東口  | 102         | 9           | 93         | 11,100                           | 9,130                            | 1,970                       |
| 40. 博多駅 | 0.181189488 | 博多口 | 筑紫口 | 108         | 133         | 25         | 17,600                           | 6,400                            | 11,200                      |

6

## 福井駅の分析③: 福井駅の可能性

- 福井駅の可能性
  - 事業所数多い出口→駅前広場面積を小さく、事業所数少ない出口→駅前広場面積を大きくした博多駅  
⇒ジニ係数が比較的小さい傾向。
  - 事業所数多い出口→駅前広場面積を大きくし、事業所数少ない出口→駅前広場面積を小さくした富山・福井駅  
⇒ジニ係数が相対的に大きい値。  
ただし、同様の傾向は、宇都宮駅では確認されなかった。
  - 駅前広場面積の出口別配置と駅周辺の事業所分布の関係が、ジニ係数に影響を与える可能性を示唆→福井駅において東口の駅前広場面積を拡大することは、出口間の事業所分布の偏りを緩和し、結果としてジニ係数を低下させる作用となる可能性。

7

## まとめ・課題・今後の展望

- まとめ
  - ジニ係数により駅出口の発展の偏りを定量化
  - 福井駅はコンパクトなまちづくりの推進で偏りが改善する可能性
- 本研究の課題
  - 事業所数の計測を目視で行っている点
  - 分析対象を駅周辺の6マスに限定している点
- 今後の展望
  - ✓ 駅まち空間を総合的に評価する「均等発展指数」の導入  
→「アクセシビリティ指標」や「移動エントロピー指数」とジニ係数の併用により、駅まち空間を総合的に評価することができる「均等発展指数」を求める

8

# 越前白茎ごぼうの 認知度向上と普及拡大に関する研究

福井県立大学創造農学科地域農政学研究室  
 4年 五島春季

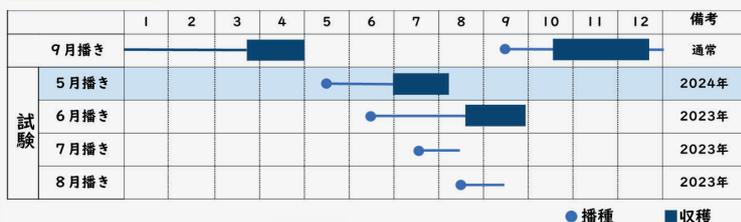
越前白茎ごぼう



## 01

作期拡大について 2023~2024

### ・5月播き・



### ・スプラウト栽培・

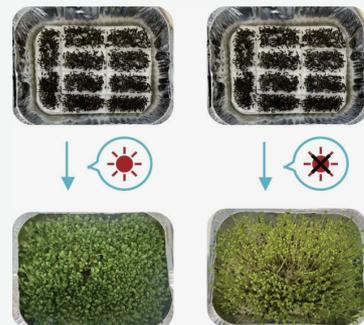


研究室窓際で栽培

|      | 播種量                        | 収量(g) |
|------|----------------------------|-------|
| 自然光  | 5.5 g / 100cm <sup>2</sup> | 96.8  |
| 完全遮光 | 5.5 g / 100cm <sup>2</sup> | 98.7  |

約2週間

11月6日播種 → 11月25日収穫



# 02

## 新商品開発について

2023~2024

葉ごぼうアイス



2023年度

葉ごぼう茶



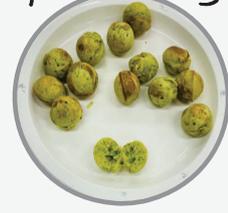
2023年度

かき揚げ



2024年度

ベビーカステラ



2024年度

「食べ歩きができること」・「すべての世代から愛されること」

# 03

## 新商品開発について

2023~2024

・葉ごぼう茶・



2023年度

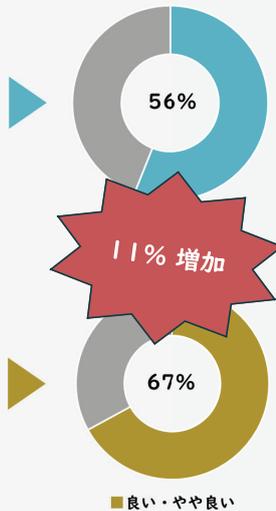
あく抜き 90秒  
煮沸 5分  
蒸らし 10分

あく抜き・煮沸時間を何度も改良した



2024年度

あく抜き 15秒  
煮沸 15分  
蒸らし 10分



・ベビーカステラ・



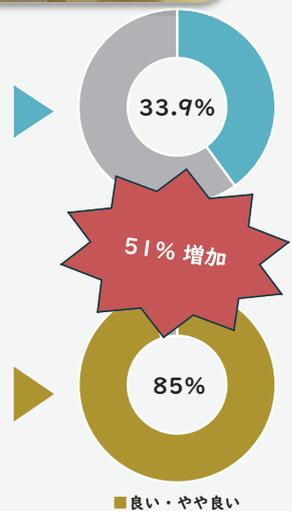
ゆりの里

ごぼうの葉 20g  
あく抜き 60秒



アンテナショップ

ごぼうの葉 45g  
あく抜き 15秒



# 04

今年度の研究  
新商品開発について

2025

葉ごぼうおむすび



葉ごぼうポタージュ



キッシュ

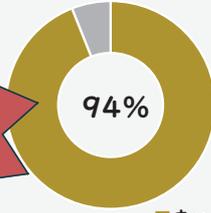
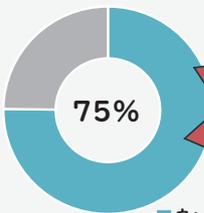


「食べ歩きができること」・「すべての世代から愛されること」

# 05

今年度の研究  
新商品開発について

・葉ごぼうおむすび・



調理 茎部・根部 干ししたけ 5cm

提供 ご飯40g ▶ 2g

ごぼうの味が少ない  
ごぼうの茎・根が口に残る  
シタケがメインになっている

商品化!!



和食料理K

30g  
300円

洋食料理Cと  
共同開発

・キッシュ・



PACKAGE

坂井市  
越前白茎ごぼうキッシュ



ふくい百歳やさしい

調理 茎部・根部 干ししたけ そぼろ状

提供 ご飯40g ▶ 4g

甘みがあっておいしい  
噛めば噛むほどうまみが出る  
様々な世代から愛される味

# 06

## 今年度の研究 その他の活動

2025

### 九頭竜川千年用水シンポジウム

#### 九頭竜川千年用水シンポジウム

講演者と来賓の両方に定員がある。聴衆大塚(名前のあおぞら)。  
ここから本報掲載の取材地である藤井市野々上。  
約1万2千ヘクタールの田舎へ。農産物(パイナップル)が九頭竜川の清流を運んでいきます。  
その歴史の歴史を振り返り、稲作農業の将来像についてデータと観光客から考えます。

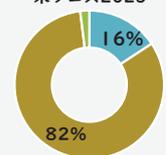
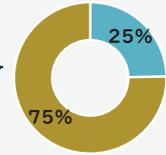
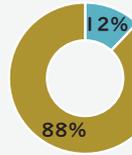
2025.2.11 開催

### 認知度調査



越前白茎ごぼうを知っていますか？

2023~2025



### マニュアルの作成

■ 知っている ■ 知らない ■ 未回答



# 海面水温が若狭湾産アカガレイの鮮度に及ぼす影響

福井県立大学 海洋生物資源学部 海洋生物資源学科  
食資源利用学研究室  
北野 李

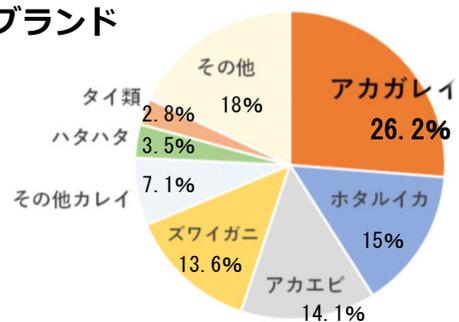
## アカガレイのブランド化

- ▶ 福井県の沖合底曳き網漁業で獲れる **約4分の1 (775t/年)** を占める **重要な資源**
- ▶ 2022年には、800g/尾以上のメスのアカガレイを **活メ・神経抜き**した刺身商材が、**プレミアムブランド「越前がれい極」**として誕生



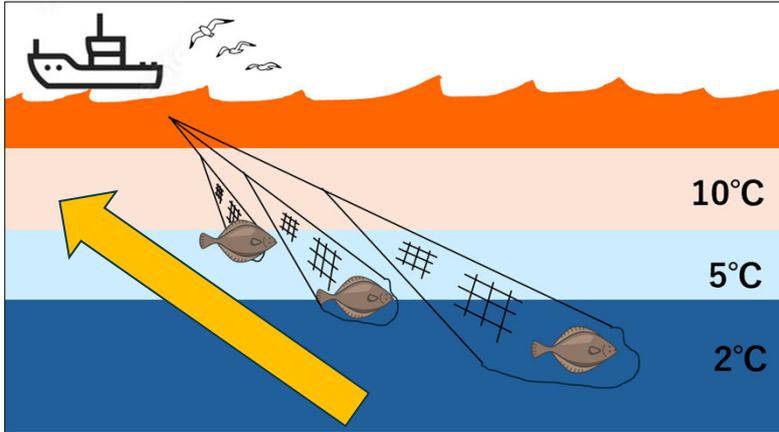
さらに

**鮮度的優位性を打ち出した  
アカガレイのブランド戦略を  
推し進める！**



福井県底曳網漁業における10年平均 (2014~2023) の漁獲割合

## 底曳網漁業で漁獲されるアカガレイの様子



### アカガレイの生息地…

水深200m以下の低水温環境  
2~5°C

### 漁獲の際…

水温の高い海面へと  
引き上げられる



体温上昇

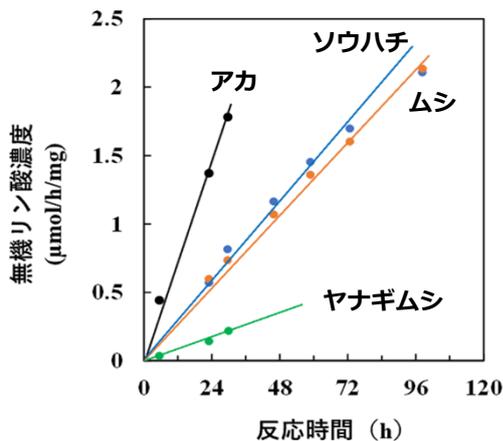


それが過ぎると苦悶死に至る



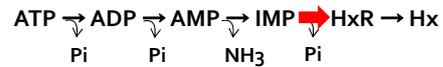
鮮度低下

## アカガレイは、カレイ類の中でも鮮度低下の速い魚種



氷冷下におけるIMPの分解に伴う  
無機リン酸生成速度の各種カレイ間での比較

死後の魚の筋肉中では、ATPは以下のように分解される。



- ▶ 魚の鮮度指標「K値」は、上記のATPを含む6種の成分の合計濃度に対するHxRとHxを合わせた濃度の割合から表される。
- ▶ したがって、上記の赤矢印 (→) で示したIMP分解活性の高低が、K値の増加速度に反映される。

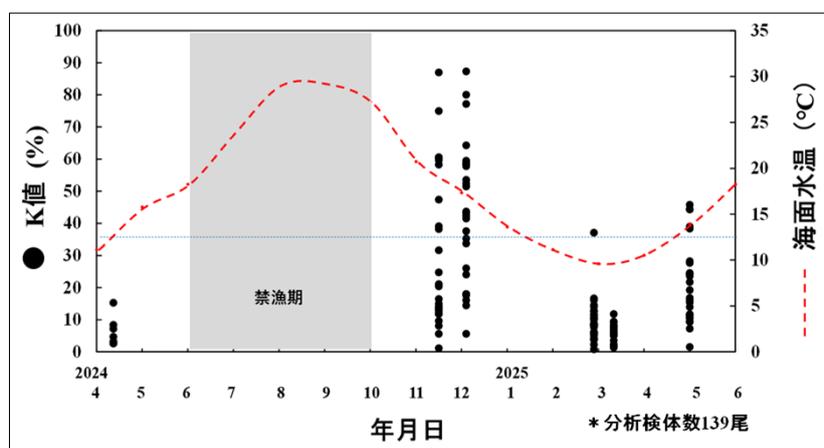
鮮度低下の速い魚種→

K値増加の速い魚種→

IMP分解活性の高い魚種

| 魚種                | IMP分解活性 (Pi μmol/h/mg)  |
|-------------------|-------------------------|
| <b>No.1</b> アカガレイ | 22.1 × 10 <sup>-4</sup> |
| ソウハチガレイ           | 8.9 × 10 <sup>-4</sup>  |
| ムシガレイ             | 8.0 × 10 <sup>-4</sup>  |
| ヤナギムシガレイ          | 2.5 × 10 <sup>-4</sup>  |

## 海面水温とアカガレイの鮮度との関係



K値 高い ←→ 低い

鮮度 悪い ←→ 良い

11・12月（海面水温 **高**）  
高いK値を示す個体が数多くあった

2・3月（海面水温 **低**）  
K値20%以下の**高鮮度**の個体が大半であった

4月後半（海面水温 **上昇**）  
K値の高い個体が増加した

## まとめ

海面水温は、アカガレイの**鮮度に影響する**

海面水温が**低い時期は高鮮度**

**1~3月の海面水温の低い時期に限定して**  
鮮度の優位性を打ち出していくことが  
福井県独自のアカガレイのブランド化戦略になる



## 結びに

「ふくい地域創生士」の認定制度が始まってから9年。  
本制度を発足させるに当たり、次のような経緯・背景がありました。

地域志向科目、課題探求型の取組を推進するために学生たちに分かりやすいインセンティブ、モチベーションになるものが必要ということで、就職等にも活用できる認定制度「ふくい地域創生士」を、平成29年度に制度化しました。さらに平成30年度には、その中から「顕著な業績を残し、地域の持続的発展に寄与できる人材」として推薦されると、「ふくい地域創生アワード」として表彰される制度を創設しました。

「ふくい地域創生士」は「ふくい」という名を冠しておりますが、あくまでも「福井」というフィールドで学んだということであり、福井に限定した認定制度ではありません。「地域創生士」には、いろんな地域それぞれに適応し、通用する人材として育成したいという想いが込められており、地元出身者を地元に残すためだけの取組ではないという特徴があります。よって、毎年多くの「ふくい地域創生士」が福井県内に留まらず、それぞれの地元へ帰って、「ふくい」という名を冠しながら活躍を続けています。

令和7年度には、「ふくい地域創生士」として福井大学46名、福井県立大学22名、福井工業大学2名、仁愛大学4名、福井工業高等専門学校4名の計78名が認定され、認定制度を開始してからの9年間で、「ふくい地域創生士」は累計612名、「ふくい地域創生アワード」は53名となりました。

これまでに認定を受けた学生からは、「この制度の魅力は就活に有利にアピールできること以外に、自分の価値観が変わることにあると思う。授業やフィールドワーク、インターンシップを通して、たくさん課題に直面する過程で、物事へのアプローチや他者との関係の中で自分の考え方を見つめ直すことでもあると思う。このような魅力をぜひ後輩に伝えたい。」という声が寄せられています。

制度の認知度や活用など改善すべき課題は多く存在しますが、一部、福井県の採用試験（アピール枠）などで取り上げられておりますので、今後益々、地域産業界等のご理解・応援を得て、採用の際に前向きな評価をいただけるよう周知等に取り組んでまいります。

地域創生士に認定された学生がそれぞれのフィールドで活躍し、それをまた後輩たちに還元していく。そういった流れを作ることで、新たな化学変化が生まれ、地域創生士の進化・深化に繋がり、ひいては地域創生への大きな原動力となっていくことを期待しています。



FAAホームページ

FAAふくいアカデミックアライアンス事務局

令和7年度表彰者

# ふくい地域創生アワード

実績・業績集



**福井県立大学**  
Fukui Prefectural University



**福井工業高等専門学校**